

地域で支える子どもの育ち

〈高知家の発達障害支援の課題〉



海辺の杜ホスピタル
ディケアわくわく共同作品
「キャップワールド」



入場
無料

平成30年 10月24日 水 午後 1:00～4:30

高知県民文化ホール（グリーン）

7. ロゲラム

PM 1:00 開会あいさつ 高知県精神保健福祉協会会長 明神 和弘
来賓あいさつ 高知県知事 尾崎 正直
高知市長 岡崎 誠也
高知県医師会長 岡林 弘毅

PM 1:20 表彰式

PM 1:30 休 憩

PM 1:35 アトラクション 愛幸病院

PM 1:45 休 憩

PM 1:50 講演 「発達障害児への地域子育て支援」

講師 NPOライフ・ステージ・サポートみえ理事長
前三重県立小児（こども）心療センターあすなろ学園園長 西田 寿美

PM 3:00 休 憩

PM 3:10 シンポジウム 「高知県の現状と課題」

●シンポジスト 高知県立療育福祉センター副センター長 北添 紀子
高知ギルバーク発達神経精神医学センター所長 藤宗美千子
高知市こども未来部子ども育成課子ども発達支援担当係長 岡崎 直子
香南市健康対策課保健師

●助言者 NPOライフ・ステージ・サポートみえ理事長
前三重県立小児（こども）心療センターあすなろ学園園長 西田 寿美

●座 長 医療法人精華園海辺の杜ホスピタル院長 岡田 和史

PM 4:25 閉会あいさつ 高知県精神保健福祉協会副会長 橋詰 宏

〔主 催〕 高知県精神保健福祉協会

〔事務局〕 高知県精神保健福祉協会 高知市丸ノ内1-2-20 高知県地域福祉部障害保健支援課内 TEL 088 (823) 9669

〔後 援〕

高知県・高知県教育委員会・高知市・高知市教育委員会・高知市長会・高知県町村会・（一社）高知県医師会・（社福）高知県社会福祉協議会・（公社）高知県理学療法士協会・（一社）高知県作業療法士会・高知臨床心理協会・高知県臨床心理士会・高知県精神保健福祉士協会・高知県医療ソーシャルワーカー協会・高知県精神障害者家族会連合会・（公社）高知県看護協会・（一社）日本精神科看護協会 高知県支部・高知県精神科病院協会・高知県精神神経科診療所協会・（一社）高知県社会福祉士会・（独）労働者健康安全機構高知産業保健総合支援センター・（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構高知支部高知障害者職業センター・高知県自閉症協会・高知県民生委員児童委員協議会連合会・（特非）高知いのちの電話協会・NHK高知放送局・高知新聞社・RKC高知放送・KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ・高知ケーブルテレビ・エフエム高知

第58回
高知県精神保健
福祉大会
大会要旨

「地域で支える子どもの育ち ～高知家の発達障害支援の課題～」

大会実行委員長 岡田 和史

このたびは、第58回高知県精神保健福祉大会にご来場いただき、厚く御礼申し上げます。大会実行委員長よりごあいさつを兼ねて、本大会のテーマについて御説明させていただきます。

現在、子育て真っ只中の方で、子育てについて全く悩まないという方はまずおられないでしょう。少子高齢化に伴い、少ない子どもに多くの大人が手をかけられる状況になっているはずが、家庭でも学校でも地域でも、様々な子どもの問題が話題にあがります。

精神保健福祉の立場からは、ひきこもりや発達障害の問題が重大な課題として挙げられます。本大会では、発達障害の問題を中心に、高知家の子どもの育ちをどのように支えてゆけば良いのかを考えるきっかけにしたいと、このようなテーマといたしました。

発達障害支援には多くの問題点がありますが、診断の範囲が一気に拡大したこと、本県に限らず専門医や専門の支援機関が少ないこと、家庭の養育力の低下（長時間労働や核家族化の影響、地域の人間関係の希薄化）などが大きな点として挙げられるでしょう。

これらの問題点にどのように対処していったらよいかについて、貴重な御助言をいただくために、本大会の講師としてNPOライフ・ステージサポートみえ理事長であり、前三重県立小児（こども）心療センターあすなろ学園園長である西田寿美先生をお招きいたしました。

先生は三重県において、40年以上にわたり、自閉症や不登校などの子どもたちの診療に携わってこられました。あすなろ学園は、学園という名前ながら児童思春期専門の県立の精神科病院でした（昨年より、精神科だけでなく、整形外科、小児科なども統合した、三重県立子ども心身発達医療センターに改組）。このように長い年月にわたって一つの場所で子どもたちの診療に尽力され、また三重県全体の児童精神科医療の在り方、ひいては子育て支援の在り方について、ずっと考え続け実行してこられた西田先生は、時代とともに社会文化的な状況が変化し、子育ての環境も変化し、児童精神医学の考え方も変化してきた中で、高知県が現在直面している課題を、はるかに先行して経験され、対応されてきておられます。

そのような、我々の大先輩ならではのお話は、大変豊かで充実した本物のお話となるものと確信しております。

西田先生のお話を受けて、本日ご参加いただいた皆様とともに、我々自身が高知家の子育て支援の課題についてより深く考え、より良い方策を考えて実行していきましょう。そのことが、今後の高知家の子どもたちのために役立つものとなれば、実行委員長としてうれしい限りです。

■第58回高知県精神保健福祉大会開催にあたって

高知県精神保健福祉協会 会長 明神 和弘

第58回高知県精神保健福祉大会は『発達障害』を取り上げました。「地域で支える子どもの育ち～高知家の発達障害支援の課題～」をテーマにしております。

近年子どもを取り巻く環境は、一昔前と著しく異なっております。そのことが影響しているかどうかは分かりませんが、学校や家庭におけるいじめの問題や引きこもり、また発達障害と思われる子どもの増加など多くの問題が見られるようになってきました。これらの問題にどのように対応していくのか、どれも一筋縄ではいかず、なかなか難しいように思われます。この大会では発達障害、特にその支援について参加者の皆様方と一緒に考えていきたいと思います。

第一部では、「発達障害児への地域子育て支援」という演題で、NPOライフ・ステージサポートみえの理事長の西田寿美先生にご講演いただきます。先生は三重県において、あすなろ学園で42年間の長きにわたり地域における教育・福祉・保健・医療の協働による子育て、子育て支援体制にかかわり続けられました。その中ででの自らの体験を通した貴重なお話しが聞けるのではないかと思います。

第二部はシンポジウムを行います。シンポジストは、高知県立療育福祉センター副センター長・高知ギルバーク発達神経精神医学センター長・北添紀子先生、高知市こども未来部子ども育成課担当係長・藤宗美千子さん、香南市健康対策課保健師・岡崎直子さんです。3名の先生方はそれぞれの立場から「高知家の現状と課題」についてお話いただきます。その後、西田先生にもご参加いただきディスカッションが行われる予定になっており、参加者の皆様方も引き込まれるような熱気あるシンポジウムになると期待しております。

短い時間ではございますが発達障害に関しての理解を深めていただき、高知家の発達障害支援について関心を持っていただければと願っています。

講演タイトル

「発達障害児への地域子育て支援」

近年、核家族化と少子化時代の子育て支援は、国や地域行政の火急の課題となっている。

文科省の教育現場における「気になる子」の更なる増加報告、豊田市子どもセンターによる小学6年生の3.91%が自閉症スペクトラム（ASD）との診断報告、更に子ども虐待の増加等、子どもの育ち環境の課題の多さが問題となっている。あすなろ学園は三重県の地で「障害を持った人たちも地域で人として当たり前の生活がおくれること」を目標として56年前より児童精神科臨床に取り組み、地域における教育・福祉・保健・医療の協働による子育て・子育て支援体制作りに関わり続けてきた。その渦中で42年間体験した子どもと家族の可塑性と関係機関連携の重要性について報告したい。



講師

NPOライフ・ステージサポートみえ理事長
前三重県立小児（こども）心療センター
あすなろ学園園長

西田 寿美
にしだ ひさみ

講師プロフィール

■経歴

1973年：三重県立大学医学部卒業、三重大学医学部精神科医局入局

1974年：三重県立高茶屋病院勤務、あすなろ学園での児童精神科臨床に従事

1985年：分離独立した県立小児心療センターあすなろ学園に勤務

1994年～2013年：日本児童青年精神医学会評議員

2001年～2015年：県立小児心療センターあすなろ学園園長

2006年～2013年：日本児童青年精神医学会理事

2010年：みえ不登校支援ネットワーク代表

2015年：NPOライフ・ステージサポートみえ理事長

2017年7月：社会福祉法人おおすぎ「れんげの里診療所」所長
：三重いのちの電話理事

専門は児童精神科

